

新刊 好評配布中

## 3.11 から 10 年

読者からの声  
「ひとこと感想」  
お読みください

### 東北被災者と西東京市の人びとが紡いだ日々



#### 「ひとこと感想」—第 3 便 ありがとうございます

- 感動しました。
- コロナ感染拡大が止まらず緊急事態宣言のなか、活動するのは大変だったと思います。
- 表紙をめくるとこの冊子に登場する人びとがわかりやすく表示しており、多くの団体・人びとと協働されていることがよくわかりました。
- 改めてフクシマは終わってないと思いました。避難者の方々のご苦労はあってはならないことでした。
- 志賀さんの寄稿文を拝読して改めて被災地と向き合う目線の鋭さを感じました。
- 西東京市に避難移住された方々の赤裸々な声が胸にしみました。西東京市の方々の支援活動にも頭が下がります。皆様に感謝とエールを贈ります。
- 津波でご主人を亡くされ家を流された方、また、避難生活のお話も過酷すぎます。
- 16人の避難者の声を読むと、当時のことが思い出され、被災者の方々の苦しみ、ご苦労が目につかび、この10年間に、私の中で大震災の事実が少なからず遠くなっていたことに気づかされました。
- 被災して避難を余儀なくされた人たちの伝えていきたい思いと、ジェフリーを始めとして諸団体の皆さんの震災を風化させてはならないという思いが響き合って活動されてこられたのですね。
- 大変立派な冊子ですね。
- 西東京市の人たちみんな被災者を応援してきたことを知ってあったかいものをいただき、いい町だなあと感じました。
- この冊子は、これからもずっと「伝える役割」を果たせると感じます。
- 3.11から10年を迎える今だからこそ伝えることに意味がある…ということに深く共感します。
- すべての文章を通じて、この冊子を読む人に対する思いやりを感じます。
- 写真を沢山とり入れ、読みやすさの配慮と技術の冴が全編を貫き、加えてビジュアルな手に取って読みたくなる良書でございます。
- 10年間、震災被災地・現地にいき応援し続けてきた皆さま、ありがとうございます。
- この冊子を刊行して下さったお陰で、西東京市の助け合い・協働の全体像を知ることができました。
- 被災者の皆様からのお声から臨場感・緊張感が伝わり胸がつまりました。
- 社協、市職労組、団体等の諸報告が連なり、今後の「協働」の認識と推進力に大きな弾みになることでしょう。
- 被災当事者の生の言葉をそのまま拝見できることは大変貴重に思います。

(読者の方々から届いた感想一部紹介。2021年3月20日現在)



▲エフエム西東京の特別番組「3.11 あれから10年」生放送に出演しました。3月11日の午後2時から10年を振り返りましたが思い出すと胸が苦しくなる場面もありました。そして2時46分黙とうで終了。  
出演者は右側から富岡町の古堅さん、司会進行パーソナリティの澤山さん、生活企画ジェフリーの渡辺、社会福祉協議会の安倍さん。

▲『3.11から10年』に寄稿文を寄せてくださった志賀さんは、避難者と支援者交流会「元気が〜い」には毎回参加されギターを聴かせてくださっています。  
▲志賀さんは太宰治賞受賞作家です。今年3月に新刊『百年の孤舟』ができました。出版社は仙台の荒蝦夷、1800円(税別)、渾身の短編集、震災後の4つの家族の物語ぜひお読みください。

#### ▲注文先は以下の通りです

- ① ネット通販なら(アマゾンとは取引なし)honto(ホント)または荒蝦夷(あらえみし)ショッピングカード
- ② 都内では、リプロまたは正育堂書店など
- ③ 生活企画ジェフリーにお電話くだされば、著者の志賀さんにつなぎます。



太宰治賞作家が故郷・福島県南相馬市小高を舞台に描く。東日本大震災10年、渾身の短編集。  
詩人 和合亮一 推薦!